

自分のためより誰かのためには 次代へと誇る燈火となれ)

題字 理事長 中田 康太

JCI Junior Chamber International YASUGI
一般社団法人
安来青年会議所
広報誌ふれあい



はじめに

皆さんは、社会的使命への責任や、地域社会への貢献とは何かを考えたことがありますでしょうか。私は、青年会議所という組織に出会つてから、そのことを考へるようになり、地域の問題とは何だろうか、地域のために何ができるだろうかと、地域の将来を真剣に考へるようになりました。家庭や仕事など、日常的な生活だけを送つていいことは、真剣に地域のことを考へることはなかつたかもしれません。

青年会議所（JCI）とは様々な運動を行うことにより「人々の未来を動かす契機となる団体」です。我々JCIは人々の未来に確実に影響を与えるます。子ども達は参加した一つの事業をきっかけに自分の未来を動かすこともあるでしょう。成人がまちづくり運動や意識変革運動に関われば、個人のみならず家族や周囲の人々の未来も動かしてしまうでしょう。

もちろん、我々が全ての人々の未来に責

安来市民の皆様へ
新年、あけましておめでとうございます。
私は二〇一七年度一般社団法人安来青年会議所第五十一代理事長を努めさせて頂きます中田康太と申します。
一般社団法人安来青年会議所の会議所運動に対しまして平素より格別のご高配戴きありがとうございます。
うござります。本年度も変わりませぬ、ご理解とご支援賜りますようよろしくお願い致します。



2017年度
第51代理事長
中田 康太
(有)中田建設
取締役会
2010年年

西

まちづくり

今年度、安来らしい「いいまち」とは何かを考え、探し、発信をしていきます。いいまちづくりを行つていく上で、まずは会員間で安来が抱える課題や問題点を調査し、認識しなければなりません。また、何が安来しさで、何が「いいまち」なのかを深く追い求め、そこに地域資源の魅力を大きいに活用することが必要です。

名尼子氏のお膝元として栄えた月山富田城、全国的にも知られた安来節やどじょう揃い踊り、日本最古の歴史と伝統を持つ鋼として知られるヤスキハガネ、さらに最近では名産となりつつある苺のスイーツ等、特有の産業・歴史・伝統文化、先人の輝かしい功績といった世界に誇れる地域資源を擁する非常に恵まれた地域であります。しかし地域資源というものは、「ひと」と交わることなくそれ単独で存在しているだけでは、どんなに魅力あるものでもやがて衰退してしまいます。それらは安来地域内外の、より多くの人たちと繋がることにより、今まで以上の輝きを放つものではないでしょうか。

任を持つことは到底できません。しかし、青年会議所という団体は良くも悪くも人々の未来、地域の未来を動かしてしまった運動を行つてゐるのです。私は2017年度、この事を深く認識し、一つひとつ例会・事業そして対内活動に至るまで、搖るぎ無い覚悟を持って挑戦することをお約束申し上げます。

るような安来市を創り上げていきたいと
思います。

そして、その何重にも織りなす魅力を存
分に發揮させ、我々J.Cが創り上げる事業
により地域内外の方々に地域の魅力を感
じていただき、市民の意識変革を促す事
で、明るい豊かな社会、すなわち「いま
いち」への実現を目指します。

私たちの次の世代にとつて、この安来が
「住みたいまち、働きたいまち、行ってみた
いまち」であるために、必要となる魅力を
見つけ出し、独自の創意工夫を持つて発信
をしていきます。

ゆめづくり

青少年という時期は、たくさんゆめづ
くり期間であり、興味を抱いて自己の可能
性を成長させるとても重要な時期だと言
われています。

この時期に子供たちは様々な直接体験
を通して感性を磨くことにより、今まで何
も思わなかつたことに対する興味を持てる
ようになります。この「興味を持てる」と
いうことがすごく大事なことで、興味があ
るからこそ、探求心や目標・目的意識が芽
生え、それに向かって努力したり携わつた
りする中で、大きな感動が生まれ、創造性
豊かな夢を持てるようになります。

しかし、感性が磨かれていないければ、魂
が震える様な大きな感動は感じられず、将
來への希望や期待感が薄らぎ、自分の可能
性を信じることができます、大きな夢を持って
なくなってしまいます。

だからこそ、子供たちには感性を磨きた
くさんのことに興味を持つてもらい、感動
を通じて様々な夢を描いてもらいたい。そ
して夢を持ち続け、夢を実現させるために
小さな努力を積み重ね、挑戦する心・自己
の可能性を信じることができます。

また、子供は好奇心と探求心の塊であ
り、遊びを通した直接体験により様々な環
境に主体的に関わって学んでいます。

認め、互いに協力し、ものごとを成し遂げ
るという機会が少なく、人間関係も希薄な
状況にあります。仲間との関わりや協同、
協力して成し遂げることの直接体験も今
後増々重要になつてきます。

今年度、子供本来の姿である遊びを通し
て、感性を養い興味を深め、挑戦する心・自
己の可能性を信じる心や協調性、社会性を
育み、子供たちが様々なことに挑戦しなが
ら感動する機会を増やし、ゆめづくりのお
手伝いができる環境を提供します。

更に、我々子育て世代も子供たちの気付
きや成長を通して、あらためて大人に課せ
られた責任を再認識し、青少年育成と地域
の発展を望む諸団体との繋がりを大切に
しながら、地域全体で子供たちを成長へと
導くことの重要性を強く認識しながら、心
豊かな青少年の育成に取り組んで参ります。

ひとづくり

我々J.Cが考えるひとづくりの目的と
は、組織内の人間力を養い事業などの業績
を上げることではなく、人間力を身に付
け、地域社会に寄与する責任を果たすこと
です。そのためには、まずは会員一人ひと
りが率先して行動し、説得力あふれる人格
の形成に努め、信頼され感動を与える場
所では決してありません。積極的に参加す
る事で自分自身が何かを掴み取る場所で
あり、大切なことは目的意識であり、参加
する為のプランニングであり、心の持ち方
です。それを理解し実践してこそ、達成感
を得た時、感動を共有できた時、自己の成
長を感じた時、地域の発展に貢献できたと
感じた時に、楽しさを得られる場所なのだ
と思います。私は多くの方に青年会議所で
の楽しさを存分に味わつてもらいたいと
思いますので、積極的にJ.C運動への参加
を促し、会員一人ひとりが、満足し感動で
感じるような、生き生きと活動しやりがいを
感じられるような家族にも共感してもら
えるような組織を目指していきます。

ダイヤがダイヤでしか磨けないよう、
人は人でしか磨けません。人は社会の中で
誰と出会い、何を学んで、その経験を生
かして、どう生きるかがとても重要なこと
だとれます。私たちは友人、家族、会社、
業界、団体、地域社会など多種多様な共同
体に属し、その中で様々な他人と関わりあ
います。助け合い、認め合い、励ましあう時
ばかりではありません。時には主張しあ
い、誤解しあい、相成れず背を向けあい、そ
れでも人を信じ、尊重し、感謝を覚え、私た
ちは周囲の人々の中で揉まれながら自分
といふところは、何もわからない自分が、
いつしか自分たちのまちを良くしよう、安
らしさを真剣に考えるようになることです。
そこには、色々な要素があり、人
それを感じるのは違うと思いますが、人
や運動において、市民・団体・行政、全国の
的な成長こそが、地域の財産になるのでは

ないでしょうか。

我々J.Cの重点的運動を展開するにあ
たり、青年会議所の肝とも言える「ひとづ
くり」で、真に人の上に立つて指導者とな
り先導できる人間力の向上に励みます。
う。その成長があればこそ、地域のたから
である青少年の育成、まちづくりを担う責
任団体としての運動を開拓することがで
きります。そして、その運動を見た若者
たちが青年会議所の門を叩かずにはいら
れないほどにJ.C会員に魅せられます。その
ような好循環が生まれるよう、ひとづくり
運動に取り組んで参ります。

ともづくり

青年会議所に所属するメリット、そして
楽しさとは何でしょうか。青年会議所は所
属しているだけで何かを与えてくれる場
所では決してありません。積極的に参加す
る事で自分自身が何かを掴み取る場所で
あり、大切なことは目的意識であり、参加
する為のプランニングであり、心の持ち方
です。それを理解し実践してこそ、達成感
を得た時、感動を共有できた時、自己の成
長を感じた時、地域の発展に貢献できたと
感じた時に、楽しを得られる場所なのだ
と思います。私は多くの方に青年会議所で
の楽しを存分に味わつてもらいたいと
思いますので、積極的にJ.C運動への参加
を促し、会員一人ひとりが、満足し感動で
感じるような、生き生きと活動しやりがいを
感じられるような家族にも共感してもら
えるような組織を目指していきます。

また、私が青年会議所に入会した当時を
思い返してみると、何をしているのか右も
左も分からぬ活動に戸惑いと違和感を
持ちながらも、先輩たちの背中を見ながら
運動を行っていました。青年会議所の素晴
らしいところは、何もわからない自分が、
将来を真剣に考えるようになることです。
そこには、色々な要素があり、人
それを感じるのは違うと思いますが、人
や運動において、市民・団体・行政、全国の
的な成長こそが、地域の財産になるのでは

国際青年会議所（J.C.I.）の定款に示さ
れている条項の一つであるJ.C.I.クリー
ド最後の一文は「人類への奉仕が人生最善
の仕事である」とあります。

皆さんには東日本大震災や熊本地震等の
時、被災された方々に対して「何かしたい」
と、考えなかつたでしようか。そうです。人
は少しの想像力で誰かのために行動した
いと思うのです。人は生まれながらに
「人々に優しさを分け与える心」が刻み込
まれています。だからこそ、そんな当たり
前の感情を持つて、我々J.C.は誰かのため
に寄与する運動を率先して行い、己を成長
させていくのです。

私がJ.C.で一番学んだことこそ、「自分
の目の前にいる人を何の見返りも願わ
ず前に感情を持つて、我々J.C.は誰かのため
に大切にしていく」「他人の幸せが自分の
幸せにつながる」「自分のためより誰かの
ために行動する」と言う利他の精神であ
り、日本人の心の中に宿る普遍的で象徴的
な価値観そのものです。

誰かのために行動をする。そんな単純だ
けれど難しいことを突き詰めて議論しま
い時にはぶつかりあいながら前に前に進
んでいく。そこにJ.C.の素晴らしいしさがあり
ます。

我々J.C.は「青年」会議所です。青年らし
く、英知と勇気と情熱を持つて、より良い
未来を切り開き次代へと誘う燈火となれ
るようJ.C.運動に立ち向かって参ります。
そして、諸先輩たちが創り上げ受け継いで
きた素晴らしい50年の伝統を、時代に合つ
た形に昇華させて行くことを誓い、2011
年度理事長所信とさせていただきます。

青少年ゆめ創造委員会

2017年度一般社団法人安来青年会議所、青少年ゆめ創造委員会委員長を務めさせて頂きます。

現代の子供は、インターネットや携帯ゲームといった外遊びよりも魅力的なものが溢れ、人口の減少、習い事や塾通いによる友達との時間の減少、怪我や不審者の減少により家で過ごすことが多くなっています。子供の頃を振り返ると、約束がなくとも空き地に行くと友達がいたり、年齢を超えて仲間に入れてもらったりして、周囲とのコミュニケーションや思いやりを学び、アイデアやルールを自分で決めながら今を楽しむ遊びを探していたように思います。

子供たちには、外に出て自然に触れ、友達や近所の



JCI
魅せる人財育成委員会
2017年度会員委員長
金山 栄達
(有)山陰UP販売 代表取締役
2010年入会

地域の魅力発信委員会

2017年度一般社団法人安来青年会議所、青少年ゆめ創造委員会委員長を務めさせて頂きました。

青少年ゆめへの第一歩に繋がるような事業を開いて参りますので、今年一年何卒宜しくお願ひ申します。

子供たちへの第一歩に繋がるような事業を開いて参りますので、今年一年何卒宜しくお願ひ申します。



JCI
2017年度会員委員長
古山 宏樹
三菱マヒンドラ農機㈱ 勤務
2016年入会

魅せる人財育成委員会

2017年度一般社団法人安来青年会議所、青少年ゆめ創造委員会委員長を務めさせて頂きます。

現代の子供は、インターネットや携帯ゲームといつた外遊びよりも魅力的なものが溢れ、人口の減少、習い事や塾通いによる友達との時間の減少、怪我や不審者の減少により家で過ごすことが多くなっています。子供の頃を振り返ると、約束がなくとも空き地に行くと友達がいたり、年齢を超えて仲間に入れてもらったりして、周囲とのコミュニケーションや思いやりを学び、アイデアやルールを自分で決めながら今を楽しむ遊びを探していたように思います。

子供たちには、外に出て自然に触れ、友達や近所の

人たちと関わりあいながら、楽しく過ごすために何をして遊ぶか、どうやって遊ぶかを子供たち自身が創造する過程で感性を磨いて欲しいと思っています。その経験の中に興味が持てるものがあり、実際にやつて活躍することこそが大切だと考えます。

そこで本年度の委員会では、LOMの基盤として効果的な諸会議運営をしっかりと推進していくことで組織運営の強化に必要な力量を身に着けると共に、メンバー個々のコミュニケーション能力向上を目的とした実践的な研修プログラムを開催し自己研鑽の場として提供していきたいと考えております。また、そこで学びえた知恵や経験を、地域

のリーダーとして企業や自ら運営する組織などの関わり合いに活用することで、「人」と「人」で魂を磨く信頼と魅に入会することが目的ではなく、私たちが目指すべき明るい豊かな社会を築き、「明るい豊かな社会を築きたい」と思っています。

理事長が掲げられた「人」と力あふれる人づくりにつながることと確信いたします。

2017年度一般社団法人安来青年会議所、地域の魅力発信委員会委員長を務めさせて頂きます。

情報化社会の進展及びマートフォンなどの普及により情報取得や意思疎通が容易な利便性の高い生活環境へと発展し続けています。一方で人と人、人と地域の生きた繋がりを希薄にさせ、古くから続いてきた安来しさがなくなっているように感じます。そんな現代だからこそ成し得る新たなまちづくりもあるのかもしくものだと思います。

現在に至るまで、多くの先人がその時代に即した知恵を絞り幾多のチャレンジの中から有形、無形を問わず私たちの住む安来に魅力を創つてこられました。ま

社会は全て人が動かし、人によって社会は変わります。魅せる人財育成委員会では、1人でも多くの会員が能動的にいろいろな人と関わり合いを持ち良い関係を築くことで、会員各自が次代を担うリーダーになっていくことを目指していきます。そして、地域から必要とされる「人財」を創出し、安來の誇りと責任の自覚を持って活動していくことを願っています。

郷土の歴史や文化を学び、新たな魅力となる地域資源の発掘と、次代の担い手達のさらなる「安来らしさ」の創造のため、郷土愛に溢れ能動的に行動できる地域の方々との情報交換・連携を強化し、事業を展開するとともに、地域の魅力を最大限高め、安来市に住み暮らすより多くの人たちが、郷土に対する魅力や誇りを再確認できるよう、創意工夫をもって安来の魅力を発信するよう邁進してまいります。



JCI
2017年度会員委員長
木下 淳
(株)木下工務店 勤務
2013年入会

会員募集

JCにはあなたの情熱が必要です!!

青年会議所ってどんなところ？

青年会議所は、20歳から40歳以下の青年経済人によって組織される「まちづくり」「ひとづくり」の団体です。「明るい豊かな社会」の実現を理念とし、このまちの未来を考え行動しています。

日本には青年会議所が697の地域にあり、計3万2千名あまり（2016年12月1日現在）の会員がいます。全ての会員は、40歳を超えると現役を退いてOBにならなくてはなりません。この年齢制限こそ青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動へと導いてくれます。また、青年会議所の代表である理事長をはじめとする多くの役職の任期は1年に限られています。1年ごとに様々な役職を経験することで、会員は豊富な実戦経験を積むことが出来、自己修練の成果を個々の運動にフィードバックさせていきます。



安来青年会議所に入会しませんか?

「明るい豊かな社会」の実現を目指す青年会議所の理念にご賛同いただき、ふるさと安来のために率先して運動したい!というあなた、是非、安来青年会議所に入会してみませんか?

仕事が多忙なあなたこそJC入会をお勧めします。

JCでは、より効果的な時間管理の方法を身につけ、さらに実り多い時間を生み出すことを目指します。まず、毎月の例会及び委員会への参加、というスケジュール調整からスタートしてみて下さい。

多くの仲間との出会いがあります。

異業種間での交流や意見交換が活発に行われています。

多くの同じ志を持った仲間との連帯が生まれ、人的ネットワークがつくれます。



様々なセミナーに参加できます。

経営に直接関わるセミナーもありますし、全国的に著名な講師を招くこともあります。様々な講演などはあなたに大きな感銘を与えてくれるはずです。

涙があふれるような感動を体験しませんか。

JCでの事業は利害関係がありませんので、失敗を恐れず思い切った挑戦をする事が出来ます。ボランティア体験などの事業を通して感動的な体験もできます。

(一社)安来青年会議所への お問い合わせ・ご質問

..... (一社)安来青年會議所事務局

〒692-0014 安来市飯島町1240-3

TEL 0854-22-3038 FAX 0854-22-3293

対応時間：月曜日～金曜日（8:00～16:00）

對應時間: 例曜日 小曜日- 金曜日 (9:00 - 16:00)

E-mail:yasugi-jc@galaxy.ocn.ne.jp <http://yasugi-jc.sakura.ne.jp>
庄賀謙「ふれあい」についての感想文を要望お待ちしております

広報誌「ふれあい」についてのご感想・ご要望もお待ちしております。

一般社団法人 安来青年会議所
発行所
安来飯島町1-240-3
編集長 中田 康太
編集員 魅せる人財育成委員会
金山 栄達
☎ 22-3038

まるいち木工
株式会社
中田建設
木下工務店
矢田醤油店
喜多川板金
山陰UP販売
増本土建
丸和運輸
遠藤社会保険労
山陰酸素工業株

「ふれあい新年号」は左記の
皆様のご協賛をいただき、
発行いたしました。

理事長	直前理事長	妹尾 康太
副理事長	西村 陽介	
副理事長	増本 康志	
専務理事	遠藤 宗郎	
監事	渡部 俊介	
青少年ゆめ創造委員会	委員長	
魅せる人財育成委員会	委員長	古山 宏樹
地域の魅力発信委員会	委員長	木下 栄達

2017年度役員紹介